

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名)

事業所番号	029250071		
法人名	社会福祉法人 愛の園		
事業所名	グループホーム ゆったりハウス		
所在地	青森県上北郡野辺地町字上小中野80番地190		
自己評価作成日	平成23年9月24日	評価結果市町村受理日	平成24年1月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日常生活上の世話及び機能訓練を行い、その有する能力に応じ、自立した生活を営むことができるように支援する。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成23年11月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは町の中心部より少し離れた場所にあり、静かで自然があふれ、四季を感じながら穏やかに生活を営める環境となっている。ホーム前の倉庫には食料や飲料、ポータブルトイレ、ストーブ、寝具等の備蓄をしている。職員は職場の協力の下、様々な研修に参加して資格取得に努力して、サービスの質の向上につながるよう取り組んでいる。職員の異動を最小限に留めることで、家族等とのコミュニケーションも良好であり、理念である「質の高い介護、信頼される心あたたかな介護」が提供されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

※複数ユニットがある場合、外部評価は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝・夕に理念を読み上げ、共有している。今年は特に、目標を掲げて実践できるように努力している。	運営者は地域住民への恩返しの思いで事業を開始し、利用者や地域とのつながりを大切にし、理念を作成している。管理者及び職員は朝・夕の申し送りや会議の際に理念を唱和して共有化を図り、日々のケアの実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	行事や災害時に声を掛けていただき、地域の一員として交流している。	町の担当職員が地域交流を取り持ち、夏祭りをはじめ、地域の行事へ積極的に参加している。散歩の際は近隣のクリーニング工場で働く職員達と挨拶を交わしたり、近隣住民から野菜等の差し入れがあり、日常的に交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方々に行事に参加していただき、様々な協力をお願いしたり、認知症やホームを理解していただくようにしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者にサービスの実際等を毎回報告し、意見を求めたり、サービス向上につながるような取組みを話し合っている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、第2土曜日に開催することを定めており、民生委員、町の健康福祉課職員、利用者家族、管理者、職員が委員となって、毎回必ず参加している。会議では利用者の状況やホームの活動内容等を報告しており、出された意見や要望をサービスの向上に活かし、利用者が安心して地域の中で暮らせるように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席していただき、事業所の実情を伝えながら、協力をお願いしている。	町の担当者と運営推進会議等で情報交換を行っている他、自己及び外部評価結果の報告をしている。また、ホームのサービス提供等についても相談し、助言や指導を仰ぎながら、協働関係を築いている。	

自己外部		項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>本人及び職員に危険が及ぶような場合には、やむを得ず身体拘束をする時があることを家族に説明し、承諾を得た上で行うようにしているが、できる限り拘束しないように努めている。(現在はなし)</p>	<p>身体拘束をしないケアについて、外部研修や内部勉強会を通じて全職員が理解し、日々のケアに努めている。また、無断外出防止のために玄関にセンサーを設置している他、近隣住民から協力が得られる体制となっている。外出傾向を察知した時は職員が付き添い、利用者の気持ちが落ち着くように散歩をする等の支援をしている。また、やむを得ず身体拘束を行う場合には家族に状況を説明し、同意書を得て、記録に残す体制となっている。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員が十分な休息を取れるようにシフトを作成し、心穏やかに対応できるよう努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>制度についての理解を促すために、機会を設けて話し合いをしている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>時間を十分にとり、お互いが納得した上で契約するように努めており、わからないことがあれば、随時説明している。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>契約時に口頭で説明すると共に、契約書にも明記し、理解していただいている。</p>	<p>月1回、利用者のホームでの様子や健康状態、受診状況、金銭管理状況等を生活状況報告書に記入し、家族に送付している。苦情・相談等がある場合には、家族通信欄へ記入してホームへ提出してもらい仕組みとなっており、出された苦情や意見等は職員会議で検討し、ケアに反映している。また、内部・外部苦情受付窓口を明示している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の会議で意見を出してもらい、他、毎日2度の申し送り時にも意見を出してもらい、反映させるように努めている。	朝・夕の申し送りや毎月の職員会議で、職員の意見や提案を聞く機会を設け、意思の疎通を図っている。ケア上の疑問については随時相談に応じ、職員の向上心や働く意欲に配慮し、希望のシフト調整や資格取得に向けた支援等を行っている。また、利用者との馴染みの関係を保てるよう、職員の異動にも配慮している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	無理のないシフト作成と資格取得後の給与アップを提示し、各自に合った研修を積極的に受講し、希望を持って働けるように努めている。			
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会に出席を促し、研修内容を皆で報告し合い、お互いの仕事に活かせるように取り組んでいる。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	研修時に交流を図り、情報交換をしてサービスの質の向上に取り組んでいる。			
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に本人と会い、希望や困っていること等を聞きだしており、施設内で安心して暮らせるように職員同士でも話し合い、サービス利用を開始している。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安なことや希望等を聞き、できる限りの支援を行うように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約書には明記していないが、家族や本人の希望に応じ、同法人内の職員によるマッサージも受けられるような体制をとっている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	1ユニットで人数も少ないことから、家族的な雰囲気を大事にし、共に暮らすという関係を築いている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族、施設の関係を大事にし、思いやりをもって、支え合いながら関係の構築に努めている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友達や親戚、近所の方がいつでも訪ねてきたり、会いに行くことを支援している。	知人や友人との交流が継続できるように、一人ひとりの生活習慣を大切に、電話や手紙のやりとり等の支援を行っている。また、自宅の様子を見に行ったり、馴染みの美容院や墓参り等、住み慣れた地域との関係の継続に配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士がお互いの部屋を訪ねて励まし合っている。また、何か困ったことがあれば職員に話をしてくれるので、支え合えるよう支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が入院している場合には、時折、遠方にいる家族の代わりに訪問したり、家族に電話や写真を送ったりしている。また、他の施設に入った場合にはケアマネに様子を聞いている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望にできるだけ沿えるように努めており、困難な場合は家族やその他の機関から情報を収集するようにしている。	利用者の生活歴や習慣を理解し、日常的な会話や馴染みの関係の中で思いや意向を汲み取り、利用者一人ひとりを尊重したケアに努めている。また、家族からも情報収集を行い、把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの生活をあまり崩さずに暮らしていけるように、家族から情報収集し、支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の状態を把握し、その時の状況に合わせた支援をしながら、できることはやってもらい、機能が低下しないように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族からの希望や職員の意見を聞き、それらを反映しながら介護計画を作成している。	会議で全職員が気付きを話し合い、利用者や家族の意向、または利用者の長所やできること等も踏まえて介護計画を作成している。また、定期的な見直しの他、急な課題が持ち上がった時には随時速やかに見直しをし、現状に沿った介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録記入を実践しながら、朝夕の申し送りをし、ケアに役立てている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 (小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われな い、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り 組んでいる				

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、ボランティア、地域の方々に協力を呼びかけ、本人が安全で楽しく暮らしていけるように支援している。			
30 (11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の意向を尊重し、希望にあった医療機関の受診ができるように支援している。	利用者や家族の希望するかかりつけ医への受診を支援しており、各関係医療機関とも連携を密にして、適切な医療が受けられるよう支援している。また、週に1回、認知症専門医の往診を受けることができる。受診時には職員が介助している他、家族も付き添い、受診状況の共有が図られている。		
31	○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	1日2回以上、体温や脈拍を計り、変化を見逃さないようにしており、訪問看護師等と連携を図り、必要であれば医療機関を受診するように支援している。			
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関への情報提供を即時にできるようにしている。また、利用者が落ち着いて治療を受けられるように配慮しており、家族との連絡を密に取っている。			
33 (12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に十分な話し合いをしている他、随時状況に応じて話し合いの場を設けている。	重度化や終末期の対応については、各関係機関と連絡調整しながら、医療機関への依頼等、終末期ケアの受け入れ先への移動支援をすることをホームの方針としており、契約時に利用者や家族に説明し、同意を得ている。また、状態変化や急変時には、家族や医療機関と連絡を取り、対応している。		

自己 外部	項目	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習会や避難訓練を定期的に行っており、万が一の場合に備えて自動火災通報装置を整備している。			
35 (13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の方々や職員の連絡網があり、迅速な対応ができるような協力体制になっている。また、スプリンクラーを設置している。		年2回、消防署の協力も得て総合防災訓練を行っており、ホームの勤務職員が最少人数となる夜間想定に重点を置き、実施している。自動通報装置も活用し、登録している方へ実際に連絡し、協力を得ている。また、業者による設備点検も定期的に行っており、避難場所や備蓄等も確保されている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36 (14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりに合わせた声掛け、言葉遣いをし、個々の人格を尊重しながら支援している。		職員は利用者の生活歴を把握した上で、一人ひとりのペースや気持ちに寄り添った丁寧な接遇に努めている。また、守秘義務や個人情報の取り扱いについては、外部・内部での勉強会を通じて理解しており、日々のケアに取り組んでいる。	
37	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の話をよく聞き、できる限り希望に沿えるようにしている。			
38	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調に合わせた入浴や行事等を行い、楽しく過ごせるように支援している。			
39	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	通院や行事の場合、季節にあった服装を本人と相談している他、おしゃれをして外出できるように支援している。			

自己 外部		項目	自己評価		
			実践状況	外部評価	
			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの体調や病気に対応した食事作りを心掛け、できる方には準備や片づけをお願いしている。	利用者は個々の力量に応じて食事の準備や片付け等を職員と一緒にしている。また、利用者の希望を取り入れた朝・夕の献立を作成しており、昼食は法人のデイサービスから提供されている。また、必要に応じて代替食も準備している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事制限や水分摂取制限がある方にも栄養バランスを考え、楽しく皆で食事できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人の力に応じた口腔ケアを行っている。また、職員の半数以上が口腔ケアの研修を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その人に合わせた排泄パターンを把握し、自立できるよう支援している。	利用者の身体状況に応じ、介護計画に沿って排泄の支援を行っている。個々のタイミングをみて事前誘導し、排泄機能の維持や自立に向けた支援に取り組んでいる。また、誘導時の声掛けはさりげなく、排泄の失敗時も羞恥心や不安の軽減に配慮した対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や飲み物、運動等で自立排便できるように取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	体調を考慮している他、本人の希望を聞き入れた入浴支援をしている。入浴の拒否があった場合には、時間や日を改めて対応する時もある。	週2回、午後の入浴が基本となっており、通院等で入浴できなかった場合には次の日に入浴している。体調に合わせて清拭支援をしている他、入浴拒否の利用者については、時間を変更したり、話題を変える等の工夫をしている。また、必要に応じて、法人のデイサービスにて機械浴の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は原則決めてあるが、どうしても眠れない方にはホールで職員が話を聞き、安心して眠りにつけるように努めている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	自分でできる方には見守りし、できない方には職員が付き添い、服薬している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に合わせて裁縫や編み物、畑仕事等をしていただき、自分の力を活かし、気分転換して楽しめるように支援している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	住んでいた場所に行ったり、町内見物や遠出をしている。また、町の行事や施設の行事で外出する際には、家族や地域の方々に協力してもらっている。	日常的に散歩をしたり、買い物による外出の機会を設け、気分転換を図っている。職員は利用者の希望を把握し、ドライブをしながら自宅等の町内を見て回ったり、地域の行事に積極的に参加している。また、墓参りや外泊支援は、家族の協力を得て行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物の外出時にはお金を所持して使えるように支援している。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	職員が協力して家族に連絡したり、手紙を書くことができるように支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前に花を置き、季節に合わせた飾りつけをして楽しく過ごせるように工夫している。また、季節の行事に合わせた食事作りにも配慮している。	ホーム内は明るく、広々としており、ホールにはテーブルセットやソファ、テレビ等が設置され、ゆったり穏やかに過ごすことができる。室内には花や鉢植えが飾っている他、職員と利用者が作成した四季を感じるような作品や行事の写真等を飾っており、家庭的な雰囲気となっている。また、床暖房や加湿器等で室内環境を適切に整えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール前にソファを置き、外を眺めながら仲良く話ができるようにしている。また、利用者が一人になりたい時は、部屋でテレビを見る等、のんびりと過ごせるようにしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具等を居室に配置し、できる限り自宅にいるのと同じ環境作りを心掛けており、居心地よく過ごせるよう努めている。	居室には本人の使い慣れた家具や愛用品を持ち込むように働きかけており、配置も相談しながら、利用者それぞれが居心地良く過ごせるように支援している。また、居室の内外の飾りに写真等を取り入れ、利用者の希望に沿って、四季を感じられるような、好みの居室となっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所をわかりやすく表示している。また、手すりや玄関にスロープを設置し、安全に生活できるよう工夫しており、部屋の入口には本人がわかるような目印をつけている。			